



～ こどものほめ方 ～

「ほめて育てるのが大事」とはよく聞く言葉ですが、実際、何をどうほめたらいいのでしょうか。ほめるといっても、大げさにほめたたえる必要はありません。ほめるというよりは『認める』という意識でかかわってけるといいですね。ほめるのではなく『認める』ことだけならば、日常の中でたくさん見つけられるのではないのでしょうか。

例えば苦手な野菜が少ししか食べられないときでも、子どものがんばりや少しでもできたことに対して『認める』という意識を持っていると、「苦手なのに少し食べられたんだね」「食べようとがんばったんだね」というような声をかけてあげることができます。

タイミングよく声をかけることも大事です。声をかけることが難しい場合には、笑顔を向ける、目を合わせてうなずく、スキンシップといったかかわりでも子どもは認められたと感じることができます。

一見できて当たり前のようなささいなことでも、「〇〇できたね」「〇〇がんばったね」と大人に目を向けてもらい、認めてもらうのは子どもにとっては嬉しいことです。子どもは認められることで自信をつけていき、それがやがては自分で自分自身を認められる力になっていきます。

1つ注意したいこととして、子どもが行動する前から「〇〇できるよね」「〇〇できてえらいね」とおだててやらせようとする場合がありますが、これをやりすぎると、子どもは“今の自分じゃだめなんだ”とってしまう可能性があります。もっともっと、とがんばらせようとするのではなく、今時点での子どものがんばり・成長を認めてあげたいですね。